2027 年度

香川大学大学院創発科学研究科創発科学専攻博士後期課程
［4 月入学］

学　生　募　集　要　項

（一般選抜）
（社会人特別選抜）
（外国人留学生特別選抜）

2026 年 4 月
（2026 年 10 月更新）

香川大学大学院創発科学研究科
〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20
TEL（087）864-2015

創発科学研究科入学試験日程

【2026 年度 10 月入学者】

〇一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜

出願期間	2026 年 7 月 21 日（火）～ 7 月 27 日（月）
試験実施日	2026 年 8 月 21 日（金）予備日 24 日（月）
合格者発表	2026 年 9 月 10 日（木）
入学手続日	2026 年 9 月 24 日（木）最終日

【2027 年度 4 月入学者［第 I 期］】

〇一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜

出願期間	2026 年 7 月 21 日（火）～ 7 月 27 日（月）
試験実施日	2026 年 8 月 21 日（金）予備日 24 日（月）
合格者発表	2026 年 9 月 10 日（木）
入学手続日	2027 年 3 月 15 日（月）最終日

【2027 年度 4 月入学者［第 II 期］】

〇一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜

出願期間	2026 年 11 月 24 日（火）～11 月 30 日（月）
試験実施日	2026 年 12 月 26 日（土）予備日 27 日（日）
合格者発表	2027 年 1 月 25 日（月）
入学手続	2027 年 3 月 15 日（月）最終日

入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士後期課程のアドミッション・ポリシー

①知識・技能・理解力 主とする専門領域に関する大学院修士課程修了程度の基礎知識・技能・理解力
②思考力・判断力・表現力 複雑で複合的な課題の探究や解決方法について，多角的な観点から論理的に思考・判断できる力，また，それらを説明できる表現力
③研究能力・応用力 主とする専門領域に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げる研究を遂行するための基盤的な研究能力と応用力
④探求心・意欲・態度 主とする専門領域に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げることに対する強い意欲・態度と創造的な探求心
⑤倫理観・社会的責任 社会構造の変化などによって引き起こされる課題を見出し，それらの解決を志向する責任感，人間尊重の態度と他者と共感できるコミュニケーション力，他の分野との協働を志向する姿勢及び倫理的態度
⑥グローバルマインド 主とする専門分野に加え，関連する諸分野に関する国内外の情報を理解する基本的な言語運用能力と，国際的な視野・多文化理解の視点から，地域や社会における諸課題の発見と解決方法を考えることができる発想力

各プログラムのアドミッション・ポリシー

社会創発プログラム

①知識・技能・理解力 　人文・社会科学に関する大学院修士課程修了程度の基礎知識・技能・理解力
②思考力・判断力・表現力 　複雑で複合的な課題の探究や解決方法について，多角的な観点から論理的に思考・判断できる力，また，それらを説明できる表現力
③研究能力・応用力 　人文・社会科学に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げる研究を遂行するための基盤的な研究能力と応用力
④探求心・意欲・態度 　人文・社会科学に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げることに対する強い意欲・態度と創造的な探求心
⑤倫理観・社会的責任 　社会構造の変化などによって引き起こされる課題を見出し，それらの解決を志向する責任感，人間尊重の態度と他者と共感できるコミュニケーション力，他の分野との協働を志向する姿勢及び倫理的態度
⑥グローバルマインド 　人文・社会科学分野に加え，関連する諸分野に関する国内外の情報を理解する基本的な言語運用能力と，国際的な視野・多文化理解の視点から，地域や社会における諸課題の発見と解決方法を考えることができる発想力

先端工学デザインプログラム

①知識・技能・理解力 　自然生命科学または生命科学に関する大学院修士課程修了程度の基礎知識・技能・理解力
②思考力・判断力・表現力 　複雑で複合的な課題の探究や解決方法について，多角的な観点から論理的に思考・判断できる力，また，それらを説明できる表現力
③研究能力・応用力 　自然生命科学または生命科学に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げる研究を遂行するための基盤的な研究能力と応用力

④探求心・意欲・態度 自然生命科学または生命科学に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げることに対する強い意欲・態度と創造的な探求心
⑤倫理観・社会的責任 社会構造の変化などによって引き起こされる課題を見出し，それらの解決を志向する責任感，人間尊重の態度と他者と共感できるコミュニケーション力，他の分野との協働を志向する姿勢及び倫理的態度
⑥グローバルマインド 自然生命科学または生命科学分野に加え，関連する諸分野に関する国内外の情報を理解する基本的な言語運用能力と，国際的な視野・多文化理解の視点から，地域や社会における諸課題の発見と解決方法を考えることができる発想力

レジリエント社会共創プログラム

①知識・技能・理解力 危機管理学に関する大学院修士課程修了程度の基礎知識・技能・理解力
②思考力・判断力・表現力 複雑で複合的な課題の探究や解決方法について，多角的な観点から論理的に思考・判断できる力，また，それらを説明できる表現力
③研究能力・応用力 危機管理学に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げる研究を遂行するための基盤的な研究能力と応用力
④探求心・意欲・態度 危機管理学に関する知識・技能と複数分野の知見を活用して，複雑で複合的な課題を解決し，社会実装に繋げることに対する強い意欲・態度と創造的な探求心
⑤倫理観・社会的責任 社会構造の変化などによって引き起こされる課題を見出し，それらの解決を志向する責任感，人間尊重の態度と他者と共感できるコミュニケーション力，他の分野との協働を志向する姿勢及び倫理的態度
⑥グローバルマインド 危機管理学分野に加え，関連する諸分野に関する国内外の情報を理解する基本的な言語運用能力と，国際的な視野・多文化理解の視点から，地域や社会における諸課題の発見と解決方法を考えることができる発想力

目　　次

2027 年度 香川大学大学院創発科学研究科博士後期課程〔4 月入学〕学生募集要項

１．募集人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．出願資格 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
３．出願資格審査について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
４．研究分野及び指導教員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
５．出願手続 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
６．選抜方法等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
７．合格者発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
８．入学手続 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
９．注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
10．長期履修学生について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

香川大学大学院創発科学研究科博士後期課程の概要

１．創発科学研究科博士後期課程の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・16
２．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ・・・・・・・16
３．学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ・・・・・・・・・・・・・20
４．教育課程編成及び特色 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
各プログラムの概要と教育内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
５．開設授業科目及び修了要件について ・・・・・・・・・・・・・・・・・31
（１）開設授業科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
（２）修了要件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
大学院設置基準第 14 条に規定する教育方法の特例について・・・・・32

注意事項

出願資格審査又は出願の申請（書類提出）の２週間前までに，必ず指導教員として希望する教員に，自らの研究内容等について相談し，承諾を得た上で，書類を作成してください。事前の相談がない場合，原則として書類を受領しません（書類不備のため)。

2027 年度 香川大学大学院創発科学研究科博士後期課程

４月入学
学　生　募　集　要　項

本研究科の目的

・専門分野での具体的な課題解決方法を綿密にデザインでき，かつ複数の学問分野から得られた多様な知識や技術を協調的に組み合わすことのできる能力を有し，未来における新産業の創造や地域が直面する新課題の解決に貢献できる人材を輩出する。 ・創発科学の視点に立って，大学を核とした地域において，さまざまな主体（住民，企業，官公庁，NPO/NGO 等）との柔軟なネットワークを構築し，地域社会の望ましい産業や新たな地域社会の姿を築く。

1. 募集人員

専攻	プログラム	募集人員
創発科学専攻	社会創発プログラム	22 人
	先端工学デザインプログラム	
	レジリエント社会共創プログラム	

２．出願資格

※社会人特別選抜への出願は,「大学院（修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程）を修了して２年以上経過している」か「有職者（2 ページの注：①を除く。）であること」が付帯条件となります。

※外国人留学生特別選抜への出願は，在留資格「留学」を有する者，又は入学時に「留学」を取得できる見込みの者であることが付帯条件となります。

次の各号のいずれかに該当する者

（１） 修士の学位又は専門職学位を有する者及び 2027 年 3 月までに取得見込みの者

（２） 外国において修士の学位又は専門職学位（学校教育法第 104 条第 1 項の規定に基づき学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位をいう。）に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月までに授与される見込みの者

（３） 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月までに授与される見込みの者

（４）　我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月までに授与される見込みの者

（５）　国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月までに授与される見込みの者

（６）　外国の学校，（４）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査（博士論文研究基礎力審査）に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び 2027 年 3 月までに認められる見込みの者

（７）　文部科学大臣の指定した者及び 2027 年 3 月までに指定した者に該当する見込みの者（平成元年文部省告示第 118 号）

・大学を卒業し，大学，研究所等において，２年以上研究に従事した者で，本学大学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

・外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後，又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後，大学，研究所等において，２年以上研究に従事した者で，本学大学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（８）　本学大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，24 歳に達したもの及び 2027 年 3 月までに 24 歳に達するもの

注：① １ページの出願資格（１）に該当する者のうち，2027 年 3 月に本学大学院修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程を修了し，引き続き本課程に進学する者は，進学者とみなされます。進学者の選考は，一般選抜により行います。

② 出願資格（８）については，以下のとおりです。

高等専門学校・短期大学の卒業者，専修学校・各種学校の修了者，外国の大学の日本分校・外国人学校の卒業（修了）者など大学卒業資格を有していない者を対象とするもの

３．出願資格審査について

出願資格の(７)・(８)により出願しようとする者は，出願に先立って出願資格審査を行いますので，あらかじめ問い合わせてください。 出願資格審査の概要は以下のとおりです。

（１）提出書類等（表中以外の書類を請求する場合もあります）

申　請　書　類　等	摘　　要
出願資格審査申請書	本学所定の用紙を使用してください。
成　績　証　明　書	最終学歴のもの ※厳封したものを提出してください。ただし，本学が発行する成績証明書については厳封の必要はありません。 ※偽造防止が施されている証明書用紙を使用されているものは，厳封の必要はありません。
卒業（修了）証明書	最終学歴のもの
研 究 業 績 調 書*	これまでに発表した学術論文等（修士論文，報告，学会発表を含む。） のリストを提出してください（本学所定の用紙)。学術論文等がない場合は，特許など実務経験に基づく実績について記載してください。
研 究 業 績 の 写 し*	研究業績のうち，主要な学術論文等の写しを提出してください。
研究又は業務に従事した証明書	出願資格(７)により出願する者 所属長が発行し，技術者・教員・研究者等として２年以上研究又は業務に従事したことを証明するもの（様式任意）

＊修士課程または博士前期課程在学中で，まだ研究業績のないものは，提出する必要はありません。

◆申請書類の作成に英語を用いることが可能です。

◆英語・日本語以外の証明書類，論文は，英語又は日本語の訳を添付してください。

◆出願資格審査で認定された者は，出願の際に成績証明書，卒業（修了）証明書，研究業績調書及び研究業績の写しを，再度提出する必要はありません。

◆出願資格審査希望の者は，指導教員として希望する教員に，書類提出の２週間前までに,自らの研究内容等について相談し,承諾を得た上で書類を作成してください。事前の相談がない場合，原則として書類を受領しません（書類不備のため）。

教員の連絡先がわからない場合，他大学出身者，社会人で，希望する指導教員の選択にあたって相談・助言等が必要な場合は，リキャリスキル教学センターまでご相談くだ

さい（本学の学生も利用可能です)。

香川大学リキャリスキル教学センター

教育・学生支援部修学支援課
〒760-8521 香川県高松市幸町 1 番 1 号
TEL（087）832-1519（平日 9 時～17 時）
E-mail recarin-h@kagawa-u.ac.jp
URL　https://www.recarin.kagawa-u.ac.jp/

（２） 提出書類等の提出期限

	提　出　期　限
第Ⅰ期	2026 年　6 月 26 日（金）（必着）
第Ⅱ期	2026 年 10 月 29 日（木）（必着）

・必ず「簡易書留・速達」とし，期限内に必着するように郵送してください。
期限を過ぎて到着したものは，受理しません。

（３） 出願資格審査の方法
提出書類により行います。なお，本大学院が必要と認めた場合は，面接を行います。

（４） 出願資格審査書類の郵送先及び問い合わせ先
香川大学林町地区統合事務センター学務課学務係
〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20
TEL (087)864-2015

４．研究分野及び指導教員
出願希望の者は,指導教員として希望する教員に,必ず出願の 2 週間前までに,面談等を通じて自身の研究内容等について相談し, 承諾を得た上で指導教員を記入した出願書類を提出してください。事前の相談がない場合，原則として書類を受領しません（書類不備のため）。
連絡先がわからない場合，他大学出身者，社会人で，希望する指導教員の選択にあたって相談･助言等が必要な場合は, リキャリスキル教学センターまでご相談ください(本学の学生も利用可能です)。

香川大学リキャリスキル教学センター

教育・学生支援部修学支援課
〒760-8521 香川県高松市幸町 1 番 1 号
TEL 087-832-1519（平日 9 時～17 時）
E-mail recarin-h@kagawa-u.ac.jp
URL　https://www.recarin.kagawa-u.ac.jp/

５．出願手続

（１） 出願書類の提出期限

一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜

	出　願　期　間
第Ⅰ期	2026 年 7 月 21 日（火）～ 7 月 27 日（月）17 時（必着）
第Ⅱ期	2026 年 11 月 24 日（火）～11 月 30 日（月）17 時（必着）

（２） 出願方法

○ 郵 送

宛　先 〒761-0396
香川県高松市林町 2217-20
国立大学法人 香川大学
林町地区統合事務センター学務課 学務係

※必ず「簡易書留・速達」で送付してください。

※出願期間を過ぎて到着したものは受理しませんので，十分注意してください。

○ 持 参

それぞれの提出期間最終日（第Ⅰ期：2026 年 7 月 27 日（月），第Ⅱ期：2026 年 11 月 30 日（月））のみ持参での提出を認めます。原則は郵送にて提出してください。

提出先 〒761-0396
香川県高松市林町 2217-20
国立大学法人 香川大学
林町地区統合事務センター学務課学務係

※「封筒貼付用あて名シート」をダウンロードして印刷し，角形 2 号封筒に貼り付け，出願書類等を一括して封入してください。

※窓口での受付時間は 9 時～17 時です。それ以外の時間帯では受付を行いませ

んので注意してください。

（３） **出願書類等**

出願書類等	摘　　要
入　学　願　書	本学所定の用紙を使用してください。
履　歴　書	本学所定の用紙を使用してください。
志　望　理　由　書	【一般選抜・外国人留学生特別選抜】 本学所定の用紙に従い，1,000 字（英語の場合は 500words）程度で記入してください。 【社会人特別選抜】 本学所定の用紙に従い，1,200 字（英語の場合は 600 words）程度で記入してください。
研　究　計　画　書	本学所定の用紙に従い，2 ,000 字(英語の場合は 1,000words）程度で記入してください。
成　績　証　明　書	・修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程成績証明書 ・学部の成績証明書 ※上記の２つの証明書を提出してください。厳封したものを提出してください。ただし，本学が発行する成績証明書については厳封の必要はありません。 ※偽造防止が施されている証明書用紙を使用されているものは，厳封の必要はありません。
修了（見込）証明書	出身大学大学院の学長又は研究科長が作成したもの
修　士　論　文	作成した又は作成予定の修士論文について, 5,000 字程度（図表も字数換算する）にまとめた概要を提出すること（様式任意） ※作成した修士論文（専門職大学院の場合はリサーチペーパー）の提出も可とする。その場合は，概要の提出は不要。 ※出願資格審査を受けて受験する者は，これまで行ってきた研究・社会活動の概要を 3,000 字程度（図表も字数換算する）にまとめて提出すること（様式任意）
研 究 業 績 調 書※	本学所定の用紙(１)研究歴，(２)研究業績リストを使用してください。
研 究 業 績 の 写 し※	研究業績のうち，研究計画書に関係する学術論文等の写しを提出してください。

検　　定　　料	30,000 円（本学大学院修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程を 2027 年 3 月に修了見込みの者及び国費留学生は，検定料は不要です。） 「検定料 振込依頼書（入金票)」及び「検定料 領収書」に必要事項を記入の上，第Ⅰ期：2026 年 7 月 10 日（金）～2026 年 7 月 27 日（月)，第Ⅱ期：2026 年 11 月 13 日(金)～2026 年 11 月 30 日(月)の間に金融機関（郵便局・ゆうちょ銀行を除く。）の窓口で所定の検定料を振り込んでください（ＡＴＭは利用できません。また，振込手数料は振込人負担です。)。その際，必ず入学願書下部の「受付金融機関出納印」欄に押印を受けてください。 通常，金融機関の窓口取扱時間は，平日の 15 時までです。また，土日・ 祝日は休業となりますので注意してください。
受験票　・　写真票	本学所定の用紙を使用してください。
受験票等送付用封筒	長形 3 号の封筒に，自己の住所，氏名及び郵便番号を明記し，410 円分の郵便切手を貼付してください。
あ　て　名　票	合格通知時に使用します。
住民票，又は在留カードの写し	外国人のみ。日本に在住する外国人は，住民票（市区町村長の交付するもので在留期間・資格を記載したもの）又は「在留カード」の両面コピーを提出してください。
パスポートの写し及び出身大学の推薦書	外国人のみ。日本に在住していない外国人は，パスポートの写しと出身大学の推薦書（任意様式，日本語又は英語で作成したもの）を提出してください。
長期履修学生申請書	長期履修学生を希望する者のみ，本学所定の用紙を用いて提出してください。
博士論文研究基礎力審査に相当する審査に係る確認書	出願資格(６)により出願しようとする者は，出身大学大学院が作成した確認書を提出してください。
日本語又は英語能力に係る確認書	香川大学出身以外の者で，日本語又は英語を母語としない者は，日本語又は英語能力の測定結果の証明書（レベル・得点等が記載されたもの）の写しを提出してください。 日本留学試験受験者は「日本留学試験成績通知書」の写しを，日本語能力試験受験者は「日本語能力試験合否結果通知書」の写しを提出してください。

※修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程在学中で，まだ研究業績のないものは，提出する必要はありません。

◆外国から出願する場合は，事前に香川大学林町地区統合事務センター学務課学務係へご連絡ください。

◆入学願書等に記載する氏名と，証明書に記載された氏名が改姓等により異なる場合には，改氏名の事実を証明できる書類（戸籍抄本等（コピー可））を添付してください。

◆いずれの選抜区分においても，出願書類の作成に英語を用いることが可能です。

◆英語・日本語以外の証明書類，論文は，英語又は日本語の訳を添付してください。ただし，論文については，英語又は日本語の 1,000 字程度の概要を添付してください。

（４） 障がい等を有する入学志願者との事前相談について

障がいを有する等，受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある入学志願者は，出願に先立ち，あらかじめ本研究科へ相談してください。

① 相談の時期

	提　出　期　限
第Ⅰ期	2026 年　6 月 26 日（金）（必着）
第Ⅱ期	2026 年 10 月 29 日（木）（必着）

② 相談の方法

申請書（様式自由，健康診断書等必要書類添付）を提出することとし，必要な場合は，本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

③ 連絡先

香川大学林町地区統合事務センター学務課学務係
〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20
TEL (087)864-2015

なお，相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので，出願前のできるだけ早い時期に，相談してください。

特に，下表に相当する障害がある者については，申し出がなかった場合，受験の際，障害等の状態に応じた対応ができなくなる場合もありますので十分注意してください。下表から判断できない場合は，お問い合わせください。

区　　分	障害の程度
視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち，拡大鏡等の使用によっても通常の文字，図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち，補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行，筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの ・肢体不自由の状態が上記に掲げる程度に達しないもののうち，常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病　　弱	・慢性の呼吸器疾患，腎臓疾患及び神経疾患，悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの ・身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
そ　の　他	上記以外で，受験上，修学上特別の配慮を必要とするもの （例）発達障害（ＡＤＨＤ，自閉症等），パニック障害，頻尿

６．選抜方法等

【一般選抜】

（１）　学力試験（口述試験）

入学者の選抜は，書類審査及び口述試験の結果を総合して行います。

口述試験は，「志望理由書，修士論文，研究計画書及び研究業績調書等の資料」に基づき日本語又は英語で行います。

「これまでの研究内容及び研究計画」について発表（20 分程度，パーソナルコンピュータ使用を原則とします。）した後，研究計画の内容及び遂行のための能力を問います。

（２）　口述試験の日時及び場所

日　時：第Ⅰ期　2026 年　8 月 21 日（金）9：00～
　　第Ⅱ期　2026 年 12 月 26 日（土）9：00～

場　所：社会創発プログラム　　幸町南キャンパス
　　先端工学デザインプログラム　　林町キャンパス
　　レジリエント社会共創プログラム　　林町キャンパス

※　幸町南キャンパス所在地　香川県高松市幸町 2 番 1 号
　　林町キャンパス所在地　　香川県高松市林町 2217 番地 20

【社会人特別選抜】

（１）　学力試験（口述試験）

入学者の選抜は，書類審査及び口述試験の結果を総合して行います。

口述試験は，「志望理由書，修士論文，研究計画書及び研究業績調書等の資料」に基づき日本語又は英語で行います。

「これまでの研究内容及び研究計画」について発表（20 分程度，パーソナルコンピュータ使用を原則とします。）した後，研究計画の内容及び遂行のための能力を問います。

（２）　口述試験の日時及び場所

日　時：第Ⅰ期　2026 年　8 月 21 日（金）9：00～
　　第Ⅱ期　2026 年 12 月 26 日（土）9：00～

場　所：社会創発プログラム　　幸町南キャンパス
　　先端工学デザインプログラム　　林町キャンパス
　　レジリエント社会共創プログラム　林町キャンパス

※　幸町南キャンパス所在地　香川県高松市幸町 2 番 1 号
　　林町キャンパス所在地　　香川県高松市林町 2217 番地 20

【外国人留学生特別選抜】

（１）学力試験（口述試験）

入学者の選抜は，書類審査及び口述試験の結果を総合して行います。

口述試験は，「志望理由書，修士論文，研究計画書及び研究業績調書等の資料」に基づき日本語又は英語で行います。

「これまでの研究内容及び研究計画」について発表（20 分程度，パーソナルコンピュータ使用を原則とします。）した後，研究計画の内容及び遂行のための能力を問います。

（２）口述試験の日時及び場所

日　時：第Ⅰ期　2026 年　8 月 21 日（金）9：00～
　　第Ⅱ期　2026 年 12 月 26 日（土）9：00～

場　所：社会創発プログラム　　幸町南キャンパス
　　先端工学デザインプログラム　　林町キャンパス
　　レジリエント社会共創プログラム　林町キャンパス

※　幸町南キャンパス所在地　香川県高松市幸町 2 番 1 号
　　林町キャンパス所在地　　香川県高松市林町 2217 番地 20

【受験上の注意事項】

・試験等の詳細は，試験場に掲示します。

・試験当日は，必ず受験票を持参してください。

・試験開始時刻 30 分前までに，各自試験場に集合してください。

・受験者集合時刻から 15 分を超えて遅刻した場合は，受験できません。

・プレゼンテーション用の媒体は，「パーソナルコンピュータ使用」を原則とします。

なお，試験当日の持参物は，以下のとおりです。

1) パーソナルコンピュータ

2) USB メモリ（プレゼンテーション資料データが入ったもの）

3) プレゼンテーション資料　3 部（紙媒体）

4) 変換アダプタ（HDMI ポートがない場合）※

※試験当日は，持参いただいたパーソナルコンピュータを試験室に備え付けてある HDMI ケーブルと接続して，試験を実施します。パーソナルコンピュータに HDMI ポートがない場合は，変換アダプタも持参してください。

・待機時間が長くなる場合があります。待機中は控室から退出できませんので，読書等の準備をしてください。

７．合格者発表

第Ⅰ期　2026 年 9 月 10 日（木）9：00（予定）

第Ⅱ期　2027 年 1 月 25 日（月）9：00（予定）

本学のホームページ上に合格者の受験番号を掲載するとともに，合格者には合格通知書を送付します。

香川大学ホームページ https://www.kagawa-u.ac.jp/

電話などによる合否の照会には応じられません。

８．入学手続

（１）　入学手続期間

2027 年 3 月 15 日（月）17 時（必着）

・期間内に入学手続を行わなかった場合は，入学を辞退したものとみなします。

（２）　入学手続に必要なもの

ａ．本学所定の誓約書

ｂ．その他本研究科に必要な書類

ｃ．納付金

入学料　282,000 円　（予定）

※本学大学院修士課程，博士前期課程又は専門職学位課程を 2027 年 3 月に修了した者及び国費留学生は，不要です。

授業料　267,900 円〈半期分〉（予定）
　　535,800 円〈年　額〉（予定）

※入学時及び在学中に学生納付金が改定された場合には，改定時から新たな納付金額が適用されます。

納付金に関する注意事項

１．前期（４月～９月）分の授業料について，2027 年 4 月 1 日から 2027 年 5 月 31 日までの間に納付してください。

２．払込済の入学料は，次の場合を除き，いかなる理由があっても返還しません。

① 入学手続を行わなかった場合

② 入学料を誤って二重に払い込んだ場合

３．入学手続を完了した後，何らかの事情で入学することができなくなった場合は，速やかに申し出て入学辞退の手続を行ってください。所定の入学辞退の手続を行わない場合は，2027 年 4 月 1 日付けで入学したことになり，授業料の債務（前期分）が発生しますのでご注意ください。

９．注意事項

（１）　志望する専攻及び研究内容については，16 ページ以降の「香川大学大学院創発科学研究科博士後期課程の概要」を参照してください。

（２）出願に関する書類に虚偽の記載をした者は，入学決定後であっても入学を取り消すことがあります。

（３）出願書類は返還しません。また，払込済の検定料は，次の場合を除き，いかなる理由があっても返還しません。

① 検定料を払い込んだが本学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

② 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

※上記①又は②に該当される方は，香川大学入試課（電話（087）832-1182）へご連絡ください。

（４） 香川大学では「外国為替及び外国貿易法」にもとづいて「国立大学法人香川大学安全保障輸出管理規程」を定めて，物品の輸出，技術の提供，人材の交流の観点から外国人留学生の受入れに関し，厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は，希望する研究活動に制限がかかる場合や，教育が受けられない場合があるので注意してください。

10. 長期履修学生について

長期履修学生とは，職業等を有している等の事情で，通常の学生よりも単位取得のための学修時間や研究指導を受ける時間が制限されるため，標準修業年限（３年）を超えて在学しなければ課程を修了できないと考える者に，申請に基づき審査し，許可した上で，標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し，修了することが認められた者です。なお，長期履修学生のためのカリキュラムは，特別に用意することはしません。

長期履修学生は，修学年数に関係なく，標準修業年限（３年）分の授業料で修学することができます。

１．長期履修学生の対象者

長期履修学生として申請することができる者は，創発科学研究科の入学者選抜試験合格者で次のいずれかに該当する者とします。

（１） 官公庁，企業等に在職している者（給与の支給を受け，職務を免除されている者を除く。）又は，自ら事業を行っている者等フルタイムの職業に就いている者（有職者であることにより社会人特別選抜に出願し，合格した者で，入学後も職業を有している者を含む。）

（２）家事，育児，親族の介護等上記（１）に準ずる負担により，修学に重大な影響がある者

（３）その他やむを得ない事由により，修学に重大な影響があると本研究科において認めた者

２．申請の手続

長期履修学生を希望する者は，指導教員の了承を得た上で，次の書類を２月末日までに提出してください。（※入学後，在学中にも申請できます。）

（１）長期履修学生申請書（別紙様式１）

（２）長期履修学生履修期間（申請）理由書（別紙様式２）

（３）長期履修計画書（別紙様式３）

（４）長期履修が必要であることを証明する書類等（在職証明書又は在職が証明できる書類等）

３．審査結果の通知

申請書類に基づき審査のうえ，長期履修学生として認めるか否かを決定し，３月末日までに通知します。

４．長期履修の期間

長期履修学生の履修期間は，４年から６年までです。

なお，課程の修了月は３月となっています。

※ 標準修業年限（３年）の２倍（６年）を超えて在学することはできません。

５．授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は，標準修業年限分の授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。ただし，在学中に授業料が改定された場合には，改定時から新授業料が適用されます。

【算出例１】

長期履修学生申請者が在学期間５年と認定された場合

535,800 円　×　３年　÷　５年

（授業料年額〈予定〉）　（標準修業年限）　（認定された在学期間）

＝　321,480 円

（長期履修学生の授業料年額〈予定〉）

６．長期履修期間の短縮又は延長

長期履修学生に特別な事情がある場合は，在学する課程において，１回に限り履修期間の短縮又は延長を認めることがあります。なお，短縮又は延長の期間は１年を単位とします。

申請期限は次のとおりです。

（１）延長　４月入学者にあっては，当初の長期履修期間の終了する日の１年前の学年における２月末日，10 月入学者にあっては，当初の長期履修期間の終了する日の１年前の学年における８月末日

（２）短縮　４月入学者にあっては，短縮を希望する年度の 12 月末日，10 月入学者にあっては短縮を希望する年度の６月末日

なお，長期履修期間は６年を超えることができません。

また，長期履修期間延長後の授業料は，標準修業年限（３年）分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間に応じて新たに算出し，納付することになります。

７．その他

（１）長期履修学生の申請に当たっては，あらかじめ，主指導予定教員とよく相談してください。

（２）長期履修学生申請書類提出先及び問い合わせ先

香川大学林町地区統合事務センター学務課学務係

〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20

TEL (087)864-2015

香川大学大学院創発科学研究科博士後期課程の概要

１．創発科学研究科博士後期課程の構成

本研究科博士後期課程は，創発科学専攻１専攻，３つのプログラムで構成されています。

プログラム	学位及び専攻分野
社会創発プログラム	博士（学術）
先端工学デザインプログラム	博士（工学），博士（学術）
レジリエント社会共創プログラム	博士（危機管理学）

２．　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士後期課程のカリキュラム・ポリシー

①専門知識・理解

「特別研究Ⅲ」では，研究計画を立案・遂行するために必要とされる専門分野における先端・先進レベルの知識・技術，多角的な評価能力を身につけます。

②研究能力・応用力

「特別研究Ⅲ」では，持続可能な社会の実現を推進するための実践力，学際的な発想力，創造的な課題探求能力と高度な問題解決能力を身につけます。

「特別研究Ⅳ」では，博士論文の研究を遂行し，ピア・レビューに耐え得る論文としてまとめ，発表する上で必要とされる能力及び個人が行うシーズ研究・萌芽的研究をチームとしてのプロジェクト研究等へと進めていくために必要とされる実践的能力を培います。

「ジョブ型研究インターンシップ」では，企業での長期インターンシップなどを通じて社会実装や研究能力を培います。

③倫理観・社会的責任

「ELSI＆グローバルマインド」「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」「ジョブ型研究インターンシップ」を通じて，幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え，総合知として国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材としての普遍的倫理観を身につけます。

④グローバルマインド

「ELSI＆グローバルマインド」によって国際的な視野を涵養するとともに，国内外の学術大会等で発表することや，学術誌に投稿することを通して，国内外の研究者と活発に議論を行うことで，実践的なグローバルマインドを身につけます。学修成果は，シラバスに記載している方法によって，各授業科目の到達目標の達成度で評価します。

「ELSI＆グローバルマインド」では，研究活動を行うために身に付けるべき高い研究倫理

観と責任感及びグローバルで俯瞰的な視野の観点から学習態度や提出されたレポートをもとに総合的な成績評価（合否で判定）を行います。
「ジョブ型研究インターンシップ」では，インターンシップ終了後に提出した報告書や受入れ企業（担当者）による学生の評価を総合して成績評価（５段階評価）を行います。

「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」では，知の深化の軸とする専門分野を中心に複数分野の知見を活用した知識・専門的技術を応用して研究を計画・実施できる能力の総合評価により，厳格な成績評価（５段階評価）を行います。

＜研究計画の遂行に対する指導及び学位論文の評価＞
　研究指導は，「研究指導計画」に基づいて実施します。そして，博士論文は，本研究科の定める学位審査基準に基づき，本研究科で選出された審査委員（主査１名，副査２名以上，学外審査員を含むことができる）により厳格な審査及び最終試験を実施し，さらに公聴会を行うことで，学位論文としての合否判定を行います。

各プログラムのカリキュラム・ポリシー

社会創発プログラム

①専門知識・理解
「特別研究Ⅲ」では，研究計画を立案・遂行するために必要とされる専門分野（人文・社会科学分野）における先端・先進レベルの知識・技術，多角的な評価能力を身につけます。

②研究能力・応用力
「特別研究Ⅲ」では，持続可能な社会の実現を推進するための実践力，学際的な発想力，創造的な課題探求能力と高度な問題解決能力を身につけます。「特別研究Ⅳ」では，博士論文の研究を遂行し，学術的に価値の高い論文としてまとめ，発表する上で必要とされる能力及び個人が行うシーズ研究・萌芽的研究をチームとしてのプロジェクト研究等へと進めていくために必要とされる実践的能力を培います。
「ジョブ型研究インターンシップ」では，企業での長期インターンシップなどを通じて社会実装や研究能力を培います。

③倫理観・社会的責任
「ELSI＆グローバルマインド」「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」「ジョブ型研究インターンシップ」を通じて，幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え，総合知として国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材としての普遍的倫理観を身につけます。

④グローバルマインド
「ELSI＆グローバルマインド」によって国際的な視野を涵養するとともに，国内外の学術大会等で発表することや学術誌に投稿することを通して，国内外の研究者と活発に議論を行うことで，実践的なグローバルマインドを身につけます。学修成果は，シラバスに記

載している方法によって，各授業科目の到達目標の達成度で評価します。
「ELSI＆グローバルマインド」では，研究活動を行うために身に付けるべき高い研究倫理観と責任感及びグローバルで俯瞰的な視野の観点から学習態度や提出されたレポートをもとに総合的な成績評価（合否で判定）を行います。
「ジョブ型研究インターンシップ」では，インターンシップ終了後に提出した報告書や受入れ企業（担当者）による学生の評価を総合して成績評価（５段階評価）を行います。

「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」では，知の深化の軸とする専門分野を中心に複数分野の知見を活用した知識・専門的技術を応用して研究を計画・実施できる能力の総合評価により，厳格な成績評価（５段階評価）を行います。

＜研究計画の遂行に対する指導及び学位論文の評価＞
研究指導は，「研究指導計画」に基づいて実施します。そして，博士論文は，本研究科の定める学位審査基準に基づき，本研究科で選出された審査委員（主査１名，副査２名以上，学外審査員を含むことができる）により厳格な審査及び最終試験を実施し，さらに公聴会を行うことで，学位論文としての合否判定を行います。

先端工学デザインプログラム

①専門知識・理解
「特別研究Ⅲ」では，研究計画を立案・遂行するために必要とされる専門分野（工学，自然生命科学（例えば農学や医療に近い分野））における先端・先進レベルの知識・技術，多角的な評価能力を身につけます。

②研究能力・応用力
「特別研究Ⅲ」では，持続可能な社会の実現を推進するための実践力，学際的な発想力，創造的な課題探求能力と高度な問題解決能力を身につけます。「特別研究Ⅳ」では，博士論文の研究を遂行し，ピア・レビューに耐え得る論文としてまとめ，発表する上で必要とされる能力及び個人が行うシーズ研究・萌芽的研究をチームとしてのプロジェクト研究等へと進めていくために必要とされる実践的能力を培います。
「ジョブ型研究インターンシップ」では，企業での長期インターンシップなどを通じて社会実装や研究能力を培います。

③倫理観・社会的責任
「ELSI＆グローバルマインド」「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」「ジョブ型研究インターンシップ」を通じて，幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え，総合知として国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材としての普遍的倫理観を身につけます。

④グローバルマインド
「ELSI＆グローバルマインド」によって国際的な視野を涵養するとともに，国内外の学術大会等で発表することや学術誌に投稿することを通して，国内外の研究者と活発に議論

を行うことで，実践的なグローバルマインドを身につけます。学修成果は，シラバスに記載している方法によって，各授業科目の到達目標の達成度で評価します。
「ELSI＆グローバルマインド」では，研究活動を行ために身に付けるべき高い研究倫理観と責任感及びグローバルで俯瞰的な視野の観点から学習態度や提出されたレポートをもとに総合的な成績評価（合否で判定）を行います。
「ジョブ型研究インターンシップ」では，インターンシップ終了後に提出した報告書や受入れ企業（担当者）による学生の評価を総合して成績評価（５段階評価）を行います。

「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」では，知の深化の軸とする専門分野を中心に複数分野の知見を活用した知識・専門的技術を応用して研究を計画・実施できる能力の総合評価により，厳格な成績評価（５段階評価）を行います。

＜研究計画の遂行に対する指導及び学位論文の評価＞
研究指導は，「研究指導計画」に基づいて実施します。そして，博士論文は，本研究科の定める学位審査基準に基づき，本研究科で選出された審査委員（主査１名，副査２名以上，学外審査員を含むことができる）により厳格な審査及び最終試験を実施し，さらに公聴会を行うことで，学位論文としての合否判定を行います。

レジリエント社会共創プログラム

①専門知識・理解
「特別研究Ⅲ」では，研究計画を立案・遂行するために必要とされる専門分野（危機管理分野）における先端・先進レベルの知識・技術，多角的な評価能力を身につけます。

②研究能力・応用力
「特別研究Ⅲ」では，持続可能な社会の実現を推進するための実践力，学際的な発想力，創造的な課題探求能力と高度な問題解決能力を身につけます。「特別研究Ⅳ」では，博士論文の研究を遂行し，ピア・レビューに耐え得る論文としてまとめ，発表する上で必要とされる能力及び個人が行うシーズ研究・萌芽的研究をチームとしてのプロジェクト研究等へと進めていくために必要とされる実践的能力を培います。「ジョブ型研究インターンシップ」では，企業での長期インターンシップなどを通じて社会実装や研究能力を培います。

③倫理観・社会的責任
「ELSI＆グローバルマインド」「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」「ジョブ型研究インターンシップ」の履修を通じて，幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え，総合知として国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材としての普遍的倫理観を身につけます。

④グローバルマインド
「ELSI＆グローバルマインド」によって国際的な視野を涵養するとともに，国内外の学術大会等で発表することや学術誌に投稿することを通して，国内外の研究者と活発に議論

を行うことで，実践的なグローバルマインドを身につけます。学修成果は，シラバスに記載している方法によって，各授業科目の到達目標の達成度で評価します。 「ELSI＆グローバルマインド」では，研究活動を行うために身に付けるべき高い研究倫理観と責任感及びグローバルで俯瞰的な視野の観点から学習態度や提出されたレポートをもとに総合的な成績評価（合否で判定）を行います。 「ジョブ型研究インターンシップ」では，インターンシップ終了後に提出した報告書や受入れ企業（担当者）による学生の評価を総合して成績評価（５段階評価）を行います。
「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」では，知の深化の軸とする専門分野を中心に複数分野の知見を活用した知識・専門的技術を応用して研究を計画・実施できる能力の総合評価により，厳格な成績評価（５段階評価）を行います。
＜研究計画の遂行に対する指導及び学位論文の評価＞ 研究指導は，「研究指導計画」に基づいて実施します。そして，博士論文は，本研究科の定める学位審査基準に基づき，本研究科で選出された審査委員（主査１名，副査２名以上，学外審査員を含むことができる）により厳格な審査及び最終試験を実施し，さらに公聴会を行うことで，学位論文としての合否判定を行います。

３．学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

①専門知識・理解 主とする専門領域の高度な専門知識を修得するとともに異なる分野の知識を効果的に組み合わせる結合力を有している。
②研究能力・応用力 分野を横断して複合的，複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力を有している。
③倫理観・社会的責任 社会構造の新たな変化（Society5.0，データ駆動型社会等）に柔軟に対応し，高い倫理観を持って未来のあるべき社会を構想し，研究成果の実装力を有している。
④グローバルマインド 現代世界と地域社会の多文化性，多様性を理解し，ローカルからグローバルスケールに至る多様で複雑な社会の諸課題に対応できるグローバルマインドを有している。

各プログラムのディプロマ・ポリシー

社会創発プログラム

①専門知識・理解 人文･社会科学分野に関して高度な専門知識を修得するとともに異なる分野の知識を効果的に組み合わせる結合力を有している。
②研究能力・応用力 分野を横断して複合的，複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力を有している。
③倫理観・社会的責任 社会構造の新たな変化（Society5.0，データ駆動型社会等）に柔軟に対応し，高い倫理観を持って未来のあるべき社会を構想し，研究成果の実装力を有している。
④グローバルマインド 現代世界と地域社会の多文化性，多様性を理解し，ローカルからグローバルスケールに至る多様で複雑な社会の諸課題に対応できるグローバルマインドを有している。

先端工学デザインプログラム

①専門知識・理解 工学，自然生命科学（例えば農学や医療に近い分野）の分野について高度な専門知識を修得するとともに異なる分野の知識を効果的に組み合わせる結合力を有している。
②研究能力・応用力 分野を横断して複合的，複雑な社会課題に対する前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力を有している。
③倫理観・社会的責任 社会構造の新たな変化（Society5.0，データ駆動型社会等）に柔軟に対応し，高い倫理観を持って未来のあるべき社会を構想し，研究成果の実装力を有している。
④グローバルマインド 現代世界と地域社会の多文化性，多様性を理解し，ローカルからグローバルスケールに至る多様で複雑な社会の諸課題に対応できるグローバルマインドを有している。

レジリエント社会共創プログラム

①専門知識・理解

危機管理分野について高度な専門知識を修得するとともに異なる分野の知識を学際的に結集する結合力を有している。
②研究能力・応用力 分野を横断して，特定または複数の連動する危機に対して前例のない解決策を導く企画能力・研究推進能力を有している。
③倫理観・社会的責任 社会構造の新たな変化（Society5.0，データ駆動型社会等）に柔軟に対応し，高い倫理観を持って未来のあるべき社会を構想し，研究成果の実装力を有している。
④グローバルマインド 現代世界と地域社会の多文化性，多様性を理解し，ローカルからグローバルスケールに至る多様で複雑な社会の諸課題に対応できるグローバルマインドを有している。

４．教育課程編成及び特色

博士後期課程では，博士前期課程（修士課程）との接続をはかりその教育内容を継承・発展させるために教育学分野，法学分野，経済学分野，工学分野の４つの学問分野を教育課程の分野構成としています。

博士後期課程の分野構成

・教育学分野
・法学分野
・経済学分野
・工学分野

本研究科では，上記の４分野及びそれらの従たる分野の教員により教育課程を構成し，「創発科学」の考えに基づき教育・研究指導を行っています。教育の基盤となる３つのプログラムと４つの学問分野の関係は，以下のとおりです。教員は３つのプログラムのうち１つのプログラムに所属します。

プログラムと主となる学問分野の関係

	教育学分野	法学分野	経済学分野	工学分野
社会創発プログラム	○	○	○	
先端工学デザインプログラム				○
レジリエント社会共創プログラム				○

プログラムと系領域の関係

プログラム名称	担当する系領域
社会創発プログラム	教育・人文系領域，法学系領域，経済学系領域，地域マネジメント系領域
先端工学デザインプログラム	工学系領域
レジリエント社会共創プログラム	工学系領域

各プログラムの概要と教育内容

社会創発プログラム

・養成する人材像

科学技術や超スマート社会(Society5.0)に対する理解と人文・社会科学分野に対する深い知識を有し，主軸とする人文・社会科学系の分野における知を深化させるとともに，人文・社会科学系の他の関連分野や工学・自然生命科学の分野を含めて複数の分野を跨いで，課題の解決につながる社会実装を総合知によって実現します。特に，本学の強みである地域デザイン，観光，多文化共生，政策法務を基盤としながら複数分野の知見を活用し，グローバルな視野のもとで持続可能な地域社会の実現に貢献することができる人材を養成します。

・教育内容

「社会の多様性の包摂と持続可能な社会制度の構築」をキーワードとして編成します。

指導教員名	研究内容	系領域 (分野等)
大久保　智生	教育心理学・犯罪心理学：学校適応，非行・問題行動，防犯活動に関する研究	教育・人文 (教育学)
小方　直幸	高等教育論，大学の経営と政策	教育・人文 (教育学)
小森　博文	生物化学：タンパク質の構造と機能に関する研究	教育・人文 (教育学)
佐藤　慶太	哲学，西洋哲学史	教育・人文 (教育学)
篠原　渉	植物系統進化学：植物の適応，進化，分類に関する研究	教育・人文 (教育学)
平　篤志	人文地理学，特に社会と経済に関する地理学	教育・人文 (教育学)
高木　由美子	有機化学：特に生体触媒化学，新規機能性物質合成をめざした有機合成化学，化学教育	教育・人文 (教育学)
髙野　啓児	代数学：主として表現論	教育・人文 (教育学)
高橋　尚志	実験物理学：特に固体及び表面の物性実験，物理教育	教育・人文 (教育学)
寺尾　徹	気象学・水文気候学・気候変動論	教育・人文 (教育学)
松井　剛太	保育・幼児教育学：特別な配慮が必要な子どものインクルージョンに関する研究	教育・人文 (教育学)
松本　一範	動物社会学：特に魚類における社会的相互作用に関する研究	教育・人文 (教育学)
松本　博雄	発達心理学・教育心理学：乳幼児・児童の発達と保育・教育実践，子育てに関する研究	教育・人文 (教育学)
三宅　岳史	哲学史，ベルクソン哲学の研究	教育・人文 (教育学)
宮本　賢作	ヘルスリテラシーとヘルスプロモーションに関する研究，身体活動環境と身体活動量の関連に関する研究，超音波筋断面画像からサルコペニアの発生を推定する方法に関する研究	教育・人文 (教育学)

守田　逸人	日本史学，古代・中世社会経済史，史料学	教育・人文 （教育学）
山田　貴志	教育に利活用するヒューマンインタフェース	教育・人文 （教育学）
渡邊　史郎	日本近代文学：特に批評・小説・詩	教育・人文 （教育学）
青木　丈	税法	法学 （法学）
石井　一也	平和学．マハートマ・ガンディーの思想と実践	法学 （法学）
金　宗郁	地方自治に関する政治・行政分析	法学 （法学）
堤　英敬	選挙分析・政党政治の研究	法学 （法学）
林田　光弘	民法	法学 （法学）
平野　美紀	刑事法：患者の自己決定権，加害者処遇，被害者支援制度	法学 （法学）
細谷　越史	労働基準法，労働契約法	法学 （法学）
前原　信夫	商法	法学 （法学）
山本　慎一	国際法:国際安全保障及び国際平和活動の法的側面に関する研究	法学 （法学）
岡田　徹太郎	経済政策の日米欧比較研究	経済学 （経済学）
沖　公祐	資本主義の理論的研究	経済学 （経済学）
加藤　美穂子	福祉経済研究	経済学 （経済学）
園部　裕子	国際社会学，国際移動・開発とジェンダー	経済学 （経済学）
張　暁紅	東アジア経済史･経営史研究	経済学 （経済学）
趙　命来	流通・マーケティングに関する研究	経済学 （経済学）
長山　貴之	日本財政の研究	経済学 （経済学）
西成　典久	地域振興・都市デザイン・観光再生・政策研究	経済学 （経済学）
朴　恩芝	財務会計に関する研究(財務・非財務情報)	経済学 （経済学）
原　直行	観光と地域活性化に関する研究	経済学 （経済学）
松岡　久美	経営管理，組織行動	経済学 （経済学）
宮島　美花	北東アジア研究およびコリアンの研究	経済学 （経済学）
山崎　隆之	観光振興に資する地域の情報発信ならびに施策に関する研究	経済学 （経済学）
大﨑　孝徳	マーケティング戦略に関する研究	地域マネジメント（経済学）
滝　聖子	経営工学，意思決定支援に関する研究	地域マネジメント（経済学）

中村　正伸	プロジェクトの管理会計， プロジェクトのマネージメント・コントロール・システム	地域マネジメント（経済学）
西中　美和	経営学：観光地マネジメント，戦略的ナレッジ・マネジメント関連分野	地域マネジメント（経済学）
吉澤　康代	組織行動，人材マネジメント，キャリア開発に関する研究	地域マネジメント（経済学）

先端工学デザインプログラム

・養成する人材像

工学・自然生命科学に対する深い知識と理解を有し，当該の工学・自然生命科学の分野における知を深化させるとともに，人文・社会科学を含めて分野を複合的に跨いで，課題解決として社会実装と豊かな環境の保全を総合知によって実現する人材を養成します。

・教育内容

「新たな技術の開発・実装と豊かな環境の保全」をキーワードとして編成します。

指導教員名	研究内容	系領域 （分野等）
井藤　隆志	プロダクトデザイン，伝統工芸・3D 技術に関する高度研究	工学 （工学）
勝又　暢久	大型または高精度で収納・展開可能な宇宙構造物の構造設計に関する研究，航空宇宙工学をベースとした地域課題に対する構造設計に関する研究	工学 （工学）
後藤田　中	身体知を対象としたマルチメディアとネットワークコミュニティを用いた教育システムのデザインと開発研究	工学 （工学）
林　　敏浩	マルチメディア・情報ネットワーク技術を用いた高度教育システムの開発研究	工学 （工学）
山中　隆史	対面場面での対話プロセスのデザインに関する研究	工学 （工学）
北村　尊義	UI/UX のためのデザインとその評価手法に関する研究	工学 （工学）
柴田　悠基	現代美術，アートプロジェクト，SF プロトタイピングに関する研究	工学 （工学）
竹内　謙善	数値シミュレーションに基づく構造最適設計	工学 （工学）
松井　哲也	ヒューマンエージェントインタラクション	工学 （工学）
南　　政宏	地域デザインに関する研究	工学 （工学）
吉村　英徳	加工技術，加工シミュレーション技術に関する研究	工学 （工学）
李　セロン	感性工学におけるパターンマイニングに関する研究	工学 （工学）
石塚　正秀	河川工学，水文学，水環境，乾燥地・黄砂に関する研究	工学 （工学）
岡﨑　慎一郎	コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する研究	工学 （工学）

末永　慶寛	水域環境評価システムの開発に関する研究	工学 (工学)
宮本　慎宏	歴史的建造物の耐震性能に関する研究	工学 (工学)
山中　稔	地盤環境工学と地盤災害に関する研究	工学 (工学)
吉田　秀典	汚染土壌や汚染水の浄化に関する研究／人工知能や ICT デバイスを援用したレジリエンスに関する研究	工学 (工学)
荒木　裕行	地盤と土構造物の強度変形特性に関する研究	工学 (工学)
釜床　美也子	木造構法，歴史的建造物の保存	工学 (工学)
鈴木　達也	建築・都市・地域における人間活動の定量的評価	工学 (工学)
玉置　哲也	自然資源利用と都市環境の持続可能性に関する研究	工学 (工学)
中島　美登子	高齢者・障がい者の居住空間計画に関する研究	工学 (工学)
長谷川　裕修	交通計画，交通工学，国土・地域計画，都市計画に関する研究（特に交通安全教育，交通行動分析，通勤交通問題の国際比較に注力）	工学 (工学)
小宅　由似	緑地の生態系サービスの評価・向上に関する研究	工学 (工学)
山本　高広	建築設備および建物での IoT 活用	工学 (工学)
安藤　一秋	ことばをコンピュータで処理する基礎技術とその応用に関する研究	工学 (工学)
亀井　仁志	大規模データインフラのデータ保管及びデータ保護に関する研究	工学 (工学)
喜田　弘司	機械学習技術のサイバーセキュリティへの応用に関する研究	工学 (工学)
米谷　雄介	学習／地域コミュニティにおけるナレッジマネジメントシステムの構築に関する研究	工学 (工学)
高木　智彦	体系的なソフトウェア開発手法および支援環境に関する研究	工学 (工学)
八重樫　理人	ソフトウェア設計法とその応用に関する研究	工学 (工学)
山田　哲	情報サービスの戦略・ビジネスモデル・プロセス・マネジメントに関する研究	工学 (工学)
小川　祐紀雄	情報ネットワークシステムのアーキテクチャに関する研究	工学 (工学)
香川　考司	プログラム言語処理系及び Web を利用したプログラミング学習支援環境に関する研究	工学 (工学)
兒島　雄志	数理最適化問題と機械学習の基礎および応用に関する研究	工学 (工学)
橋本　健二	制約式の解の計数・列挙を行う技術とその応用に関する研究	工学 (工学)
橋本　正樹	悪性サイトの自動検出，サイバー攻撃の分析，セキュリティ運用の効率化・自動化	工学 (工学)

福森　聡	バーチャルリアリティを基盤としたアプリケーション開発と知覚心理学研究に関する研究	工学 (工学)
石井　光治	遠隔機器制御などの無線応用システムに関する研究	工学 (工学)
北島　博之	心臓数理モデルにおける不整脈発生メカニズムに関する研究	工学 (工学)
丹治　裕一	科学計算のためのアルゴリズムとハードウェア実現	工学 (工学)
藤本　憲市	医用・放射線分野における工学的諸問題と最適アプローチの探求	工学 (工学)
丸　浩一	導波路型光デバイスと光通信システム・センシングシステムへの応用に関する研究	工学 (工学)
小玉　崇宏	光無線・光ファイバ通信におけるフォトニック信号処理に関する研究	工学 (工学)
松下　春奈	計算知能技術の設計とその非線形問題への応用に関する研究	工学 (工学)
武田　健太郎	知能情報システムとハードウェア設計に関する研究	工学 (工学)
石原　秀則	ロボットの知能化及び高機能化に関する研究	工学 (工学)
奥村　幸彦	脱炭素に向けたガスエンジンおよびバーナー開発 スーパーコンピューターによる熱流体シミュレーション	工学 (工学)
佐々木　大輔	空気圧ソフトアクチュエータを使用した人間親和ロボットの開発	工学 (工学)
鈴木　桂輔	VR 技術を活用したヒューマンマシンインタフェースに関する研究	工学 (工学)
高尾　英邦	皮膚を凌駕するセンシング機能を実現するナノテクノロジー触覚センサの研究	工学 (工学)
髙橋　悟	生物観測・消化管計測のためのマシンビジョンに関する研究	工学 (工学)
寺尾　京平	バイオナノテクノロジーによる細胞・生体分子の操作と解析に関する研究	工学 (工学)
前山　祥一	自律移動ロボットの要素技術とその探査・農業等への応用に関する研究	工学 (工学)
井上　恒	身体運動のバイオメカニクスと運動支援システム	工学 (工学)
大宮　祐也	機械要素技術の開発とナノマテリアルなどを用いたトライボロジーに関する研究	工学 (工学)
小水内　俊介	人型ロボットの運動制御，空中映像との力触覚インタラクション，看護支援技術	工学 (工学)
佐藤　敬子	人間の感覚知覚情報処理，色覚メカニズム，色覚バリアフリーに関する研究	工学 (工学)
林　純一郎	コンピュータビジョンによる環境認識及び人間支援に関する研究	工学 (工学)
土谷　圭央	計測システムと人間拡張技術に関する研究	工学 (工学)
石井　知彦	磁性有機・無機複合材料の電子状態と材料設計に関する研究	工学 (工学)
上村　忍	有機分子・高分子からなる機能性二次元材料に関する研究	工学 (工学)

楠瀬　尚史	多機能なセラミックス複合材料の開発に関する研究	工学 (工学)
高橋　恵輔	ナノスケール反応機構から社会インフラ応用までを対象とした，持続可能・高耐久セメント系材料の研究	工学 (工学)
田中　康弘	原子レベル微細組織評価を用いた構造材料の性能向上，機能性材料の開発に関する研究	工学 (工学)
鶴町　徳昭	光と物質の相互作用に関する研究	工学 (工学)
宮川　勇人	光・電子デバイス材料の作製と評価に関する研究	工学 (工学)
砂山　博文	機能性分子認識高分子材料の創製に関する研究	工学 (工学)
田原　圭志朗	有機分子や金属錯体を用いた有機エレクトロニクス材料の開発に関する研究	工学 (工学)
原　光生	液晶性高分子材料の開発と表面機能化に関する研究	工学 (工学)
平山　恭介	マルチモーダル・マルチスケールイメージング技術による構造材料の組織および特性評価に関する研究	工学 (工学)
堀井　洋司	無機-有機ハイブリッド分子を基盤とする新奇多機能材料の創出	工学 (工学)
松田　伸也	構造用セラミックス・繊維強化複合材料の変形，損傷，破壊機構と強度信頼性に関する研究	工学 (工学)
小野　貴史	光集積回路を基盤とした量子情報処理に関する研究	工学 (工学)
武藤　幸雄	気候変動，資源・環境問題，少子高齢化に対応した日本の農業経営の発展のあり方について，データサイエンス，経営学，経済学の分析手法を用いながら明らかにする	工学 (工学)
諸隈　正裕	地域未利用資源の利用方法の考案やそれらを利用した作物の有機栽培技術の開発を中心とした地域農業の進展に関する研究	工学 (工学)

レジリエント社会共創プログラム

・養成する人材像

研究対象とする危機に対する深い問題意識と，工学・自然生命科学の理解を基盤としながら，複数の学問分野の知識や技術を融合することで，危機の回避・軽減や被害からの回復に向けた効果的な総合知を獲得する能力を有し，実践のためのより汎用的な解決へ応用展開できる柔軟な思考・コミュニケーション能力も有する等，様々な危機に対応できる人材を養成します。

・教育内容

「安全でレジリエントな都市・居住環境の構築」をキーワードとして編成します。

指導教員名	研究内容	系領域 (分野等)
梶谷　義雄	都市・地域の災害シミュレーションとリスクマネジメントに関する研究	工学 (工学)
野々村　敦子	GIS を用いた環境・防災情報解析に関する研究	工学 (工学)
髙橋　亨輔	レジリエンス工学に基づく応用システムの研究開発/ インテリジェントコンピューティングの応用に関する研究	工学 (工学)
地元　孝輔	地震工学に関する研究	工学 (工学)

５．開設授業科目及び修了要件について

（１） 開設授業科目

博士後期課程では，人文･社会科学から自然科学までの多様な分野の国内外で活躍している研究者との対話を通して，ELSI を含め研究活動を行う上で必要となる責任感と研究倫理意識を高めるために，共通科目として「ELSI＆グローバルマインド」（１年次配当・必修・１単位）を置いています。

さらに，博士後期課程の院生が備えるべき専門性，研究遂行能力，柔軟な思考力，及び，コミュニケーション能力をコアとして修得させるための専門科目として「特別研究Ⅲ」と「特別研究Ⅳ」を置いています。

「特別研究Ⅲ」では，軸足とする専門分野についての知識や能力，技術を修得し，論文作成に必要なスキルを身につけます。

「特別研究Ⅳ」では，「特別研究Ⅲ」で学修した内容の総合知への発展及び社会実装を視野に入れ，幅広い分野から文献や資料を収集し，現象を多面的に捉えた議論を行います。また，フィールドへの近接性を活かし，企業等との共同研究や地域活動等に参画し，現場が抱える複雑かつ複合的な課題に対する理解をはかるとともに，課題解決において，分野の垣根を越えた知の結合や探究が必要となることや理論知だけでなく実践知も必要とされることを体験します。

（２） 修了要件

博士課程（後期）の修了要件は，所定の年数以上在学し，次の表の授業科目を 11 単位修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格することです。

博士課程（後期）の修了要件単位数

授業科目名	必修	修了要件単位数
ELSI＆グローバルマインド	必修	１単位
特別研究Ⅲ	必修	４単位
特別研究Ⅳ	必修	６単位
計		11 単位

大学院設置基準第 14 条に規定する教育方法の特例について

（趣旨）

大学は，産業界との共同研究の実施はもとより，地域社会や産業界における社会人のリフレッシュ教育, 新たな専門知識の修得及び研究指導等を容易にする環境を積極的に提供することが，ますます重要になってきています。このような社会人の多様なニーズに対応するために，博士課程（後期）では，大学院での履修を希望する社会人に対し，大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による趣旨を活用し，特別研究については必要に応じて土曜日に実施する用意がされています。

大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例

「大学院の課程においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は期間において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」